

授業力向上推進プロジェクト 研究テーマ一覧（外国語）

岐阜北高等学校 高見 知宏	
研究テーマ	学んだ文法を発信の形で機能させることはできるのか
設定理由内容	生徒たちは予習（宿題）に一生懸命取り組み、リーディングの授業においても本文の内容を十分に理解して授業を受けていることがよくわかる。多くの生徒たちが主体的に学び、「知識及び技能」は徐々に身に付くようになってきた。しかし、「思考力・判断力・表現力」において、ライティング（自由英作文）を出題すると、基礎レベルが抜け落ちてしまい、せっかく習った文法が十分に生かされていないというのが現状である。以上から、ライティング（自由英作文）において生徒が使用した文法に注目し、学んだ文法を発信の形で機能させていくことを目標としたい。

長良高等学校 桑原 啓優	
研究テーマ	「無理なく・無駄なく」進める指導と評価の一体化に向けた研究
設定理由内容	評価の方法が複雑になればなるほど授業で取り組むべきことが膨大になり、「評価の為の評価」になりやすくなると感じている。評価を指導に繋げるためにも「無理なく、無駄なく」かつ効果的に評価を行う仕組みが求められる。特に近年では、ペーパーテストとパフォーマンステストによるテストングを充実させたこともあり、他の評価項目とバランスを取る必要がある。本研究においては指導の改善に無理なく繋がり得る評価の在り方を検討すると同時に、旧課程から最も大きく変化した項目であるテストングの変化を指導に連動させていく方法を実践・報告する。

加納高等学校 岸 亜美	
研究テーマ	ALT と JTE が共同で創造・実施する授業
設定理由内容	海外の人と英語を使って話せるようになりたいという希望をもっている生徒に、どのような授業を実施できるかを考えたときに、本校に勤務する ALT に協力してもらうことが有効であるという結論に至った。教科書の本文内容や文法事項を英語で自然に理解し、アウトプットする機会を持てるような授業案を JTE と ALT で協同し、実施する。

大垣工業高等学校 松本 由美	
研究テーマ	英作文から見えること
設定理由内容	本校では、基礎学力を定着させるため、1年生の英語コミュニケーション I で中学英語の学び直しをしている。復習と家庭学習の定着のため、毎時間後、授業の内容を扱った英作文を課題とした。 英作文を通し、生徒一人ひとりの様々な取り組みの様子が見えてきた。それらを把握し、生徒の力をどのように伸ばすことができるか、研究する。

東濃実業高等学校 東原 万寿夫	
研究 テーマ	Informative で Motivative な授業を目指して
設定理由 内容	teacher の仕事は「教える」ことだけではないと考える。「仕事＝力×距離」であるから、生徒に力を加えて（何かを教えて）、その上生徒を遠くまで動かさなければ、teacher は仕事をしたことにはならない。Informative なコンテンツを提供することで生徒の学習への興味を喚起し、努力の一步目を踏み出させて、時に navigator、時に mentor、そしてある時には motivator として生徒に関わり、生徒それぞれの自己実現に向けた取組を多角的に支援することが（AI 普及下における）teacher の役割である。Informative で Motivative な授業とはどのようなものかを考え、それを実践するための研究である。

多治見高等学校 今村 若葉	
研究 テーマ	授業内で効果的・効率的に読みを深める手法の研究
設定理由 内容	個人的な課題のひとつとして、訳読や文法解説に偏った授業になりがちであり、生徒は扱われている英文の内容についての理解を深めることができていない。また、生徒の知識の定着活動、表現活動を行うに至っていない。「訳読オンリー」から抜け出すため、形を変えながら何度も本文・言語材料に触れる授業の「型」をつくることで、インプット・インテイクを中心とした授業を実践し、理解・知識定着から表現へとつなげる手法の研究を行う。

恵那南高等学校 山川 真弘	
研究 テーマ	学習者とともに歩む指導と評価のサイクル ～多様な学習ニーズへの対応～
設定理由 内容	学習指導要領改訂における3観点の観点別評価の実施に伴い、学校現場では、評価方法やシラバスの作成に関する混乱が生じている。評価が目的になりうる現状に課題を感じ、指導と評価を一体化し、観点別評価を生徒の学習や教師の指導改善に反映させる必要性を再確認すべきと考えた。また、観点別評価に関する15マスのマトリックスを埋めていく制度設計において、各観点でのパフォーマンスの伸長を適切に評価されない可能性がある点に問題意識を抱いた。 本実践では、多様な学習ニーズに応じ、「持続可能で汎用性のある観点別評価の方法と、評価を学習者の学びに生かす指導法の具体例を提案すること」を目的とする。実践者と学習者の振り返りをもとに実践の成果と課題を検証する。

益田清風高等学校 谷脇 裕紀	
研究 テーマ	百問繚乱とルーブリック評価を用いた英作文指導とその評価法
設定理由 内容	生徒の4技能5領域のそれぞれの力を伸ばすことがますます重要視されており、各定期考査においてもまとまった量の英作文を出題する機会が増えた。その一方で採点する側の教員の負担や苦労が増えたのも事実である。そこで教員の業務を効率化しつつ、同時に生徒の思考・判断・表現力の伸長を測る指導を目指し、生徒と教員の双方に利益ある指導を研究したいと考えたためこのテーマを設定した。研究内容としては採点で使用する機会が増えたデジタルな百問繚乱と従来のアナログなJTEとALTによる英作文添削を組み合わせた効率的な評価法を研究していく。